

決算特別委員会



付託された案件は
提案どおり認定されました

28年度一般会計歳入歳出決算認定

歳入 150億9千542万2千円
（前年比 3億3千284万4千円増）
歳出 148億7千487万円
（前年比 5億4千128万7千円増）
差引残額 2億2千55万2千円
繰越明許費繰越額 5千733万8千円
実質収支額 1億6千321万4千円

交わされた主な質疑は次のとおり

問 市外からの転入者等に対する自治会加入への説明は。

答 転入者には、窓口でなるべく自治会に加入されるよう説明し、文書等も渡しています。

問 隣組未加入の世帯数は。

答 29年3月末現在で、約640世帯が隣組に加入されていません。

問 自治会への加入促進をどのように考えているのか。

答 1人暮らしの学生なのか、高齢者だけの世帯なのか、あるいは子どもがいる世帯なのか各々アプローチの方法が違ってくるので、

個々の状況に応じ加入の促進方法を考えていきたいと思っています。

問 市報印刷代に関し、市報印刷部数、隣組未加入世帯への市報の配付方法及び印刷業者は。

答 市報印刷部数は1回につき1万3千480部で、隣組未加入世帯へは、市から直接郵送しています。現在、佐賀の印刷会社と契約を交わしていますが、入札方法は市内全部の印刷会社及び市外の印刷会社に見積依頼を行い、最低価格の印刷会社が発注しています。

問 道の駅等設置調査業務委託料の関係で、進捗状況は。

答 道の駅等設置調査業務委託料は、国県へ要望するための資料作りを行ったものです。現在、当該資料を基に国県等に対し要望活動を行っている状況です。また、本市が一段と飛躍するための起爆材として、道の駅設置は欠かせないものと思っています。

問 マイナンバーカードの普及率を上げるため、コンビニ等で住民票等を取得できる市民サービスの取り組みは。

答 コンビニ等におけるシステム導入には数千万円を要し、市役所またはコンビニに行く交通アクセ

補助金を効果的に長く使っていくようにと思っています。

意見 行政は効果があがるような宣伝を徹底すべきだと思うし、業界は、これをしっかりと利用して、勢いを得ることが大事だと思う。このことをしっかりと理解いただき、海外の方に来ていただく、大川の家具を知っていただくことはいいことだと思う。

問 市役所前通りのいちようは、元気がないとの声を市外の方からも聞く。植樹から何十年も経過しており、なぜこんなに成長が遅いのか、見栄えが良くなるように、専門家等に相談しては。

答 植樹により、根が自由に張れない状況にあります。そこが大きな要因かと思っています。樹木医等の専門家に相談はしていませんが、状況を見ながら必要に応じて相談を行い、しっかりと、管理していきたいと思っています。

要望 いちよう並木は、本市のイメージアップにもなり、また、これが立派に育ってくれば観光資源にもなると思うので、専門家に相談していただきたい。

問 消防団の再編成について、火事の際に1人、2人しか消防団員

スと費用対効果を考えれば、本市での導入はどうかと思います。マイナンバーカードは、国がまずは主体的に推進したいとのことで、カードを持つメリットを付けるとのことです。いろいろなカードポイントの残高を集めてそこで買い物ができるようなシステムを9月から総務省が試行的に運用していくとのことであり、今後はマイナンバーカードのメリット策を考えていきたいと思っています。

問 放課後児童健全育成事業に関し、学童保育所における発達障がい児への支援は。

答 支援を必要とする子どもが増えており、28年度は、学童保育所障がい児保育事業費補助金として三又、木室、田口の3学童保育所に加配の指導員を付けていただくための補助を行っています。この事業については、今後もきちんと予算措置をしていきたいと考えています。

問 特定不妊治療支援助成の人数と成果、及び認定外の治療への助成の考えは。

答 28年度の助成の申請は33件ですが、同じ方が数回の助成を受けることができるよう、実際は19組

が集まらず、消防自動車を出動できない状態も発生しており、もう少し部を統合できないかとの要望があるが、将来的には再編可能か。

答 人口も減っており、消防団と地元の意見を聞きながら、今後、研究していきたいと考えています。

問 小学校教員は、授業時間も多く忙しい上に、様々な事務処理にも時間を取られ、子どもや保護者が担任の先生と向き合う時間が少なく、コミュニケーションを取りにくい状況にあると考えられる。教員の負担軽減のためにも、プリントのコピー、宿題やテストの採点等、作業補助者の配置は。

答 実際、小学校では、教員の空き時間がほとんどなく、子どもが下校した4時半頃から翌日の授業準備等を行うこととなるため、超過勤務も強いられています。保護者で採点支援をされている学校もありますが、子どもの課題を見つけるためにも、採点は、担任がやるべきではないかと考えています。しかし、来年度から英語の授業も加わるので、できるだけ専科の教員を入れることで担任の空き時間を増やしていきたいと考えています。

問 ごみ減量化、リサイクル事業の目的に、リサイクルの向上を図るとあるが、どのように向上を図っているのか。

答 本市では、市内130か所のリサイクルステーションにおいて、環境美化推進委員に協力いただき、資源ごみの分別を行っています。

問 もう一步踏み込んで、市民が自分たちでリサイクルして品物にするような、市民のアイデアを活かせるような場所の提供は。